

③ 戦記 戦旅露営の夢はるか

1	故郷の灯	佐藤 茂	S 61・11
2	戦争史概観	四手井綱正	S 18・10
3	北斗星の下で	江上満寿男	S 51・1
4	望郷の日々	樋口 力	S 63・6
5	菊の走馬燈	近藤 真澄	H 1・7
6	戦跡を訪ねて！蒙古大草原をゆく	第六中隊戦友会	S 58・12
7	星三つの青春	宮本 伍朗	S 57・8
8	奪われた青春－強制捕虜の叫び－	赤間関書房	S 50・11
9	筑紫峠	武久 茂	S 62・9
10	吾が運を回想して	安達 英二	H 7・8
11	戦中戦後の回想録	角 正夫	H 7・8
12	ウランバトル抑留記	井上 賢	H 12・9
13	私の戦争体験①	やひめ文庫	H 3・9
14	私の戦争体験②	〃	H 5・3
15	大東亜戦争進行編（前編）	倉掛 泰隆	H 13・9
16	軍艦千歳	軍艦千歳会	H 6・10
17	青い軌跡	黒葛原 勲	H 6・6
18	比島敗戦記	池田 清	S 61・11
19	野戦病院物語	矢野 政美	S 59・2
20	騰越玉砕記	吉野 孝公	S 54・8
21	独山三史	独立山砲兵第三聯隊	S 56・5
22	戦争と若者たち	堤 克彦	S 49・11
23	戦争の語り部として	全国戦災傷害者連絡会	S 50・8
24	大村被爆記	豊田幸吉郎	S 36・10
25	平和 伝えたい母たちの願い	八女郡連合婦人会	H 7・11

26	初年兵	石橋友之祐	H 16・8
27	セレベスの海底から	笠原 美代	H 16・10
28	特務兵日記	波多野院三	S 61・1
29	続特務兵日記 ～Ⅳ	〃	
30	21 空廠会ニュース	21 空 廠 会	
31	山西残留秘史 白狼の爪跡	永富 博道	H 7・8
32	赤い夕陽に背をむけて	吉田ふじ子	H 4・4
33	草原の夕陽	山田 邦夫	S 63・9
34	銃のない兵隊	富田 寅一	H 7・12
35	敵前横断二千キロ	吉田 辰造	H 5・5
36	飢餓の島メレヨンからの生環	大浦 庸生	H 5・3
37	「落下傘ニュース」復刻版	福山 琢磨	H 12・12
38	奈良県満州開拓史	奈良県拓友会	H 8・7
39	翔飛 創刊道～第 12 号	少飛十七期綴る会	H 14・2
40	敗戦の恐怖	小野サト工	H 13・1
41	戦艦大和が沈んだ日	中川 秀彦	H 17・2
42	ビルマ戦線敗走日記	江口 萬	H 11・3
43	探求録	中尾 義孝	H 9・5
44	戦場を駈ける S L	中上與志夫	H 13・7
45	シベリアを生きる	若宮 由松	H 10・12
46	シベリア抑留体験記	真弓 一郎	S 60・12
47	我が戦記 ボルネオ回想	青山 敏男	H 9・11
48	はめられた真珠湾攻撃	三好 誠	H 12・3
49	戦艦大和からの生還	武藤 武士	H 1・12
50	虐待からの逃避行	伊集院三枝子	H 4・8
51	新聞記者が語りつぐ戦争 (4)	読売新聞編	H 4・5
52	三萬マイルの波濤	江田 敏男	S 59・12

53	太平洋戦争敗戦の真相に迫る	加藤 卓雄	H 12・12
54	生かされたいのち燃やして	來須 富子	H 7・9
55	19才 初年兵	佐藤 純大	H 16・3
56	遙かなるミレー	読売新聞編	H 6・3
57	道・道・道・東欧収容所	高橋 清	H 10・2
58	ウランバトルへの道	赤間関書房	S 51・2
59	死線を越えて	佐々木 健	S 54・5
60	母と兄と妻とへ	梶村 止	S 55・10
61	独山会戦友録	独 三 会	S 60・4
62	私の戦記	小野 健二	S 62・4
63	陣中日誌	田代 勉	S 62・11
64	続陸男君の陣中日誌	〃	H 3・8
65	生きて帰りたい	森田 尚	
66	自分誌従軍記	江上 正	
67	ある兵隊の記録	岩元 一夫	S 46
68	悲惨太平洋戦争	〃	H 16・3
69	南十字星の下で	永田 呂邨	H 17・6
70	女子挺身隊 甘木日記	寺西マリコ	S 58・4
71	海碧き島よりふるさとへ	倉ノ下和代・元田一	H 17・9
72	まぼろしの楽土・満州	やまだつとむ	S 63・10
73	祖父たちの戦場	西日本新聞社	S 60・12
74	私のシベリア物語	栗谷 票束	H 8
75	南支戦線一軍医の陣中日誌	不破 義信	S 48・4
76	中国と私その自分史	木村 連	H 11・12
77	戦争特集	南日本新聞社編	H 14・7
78	空のかなたに	朝日新聞西部本社編	H 2・7
79	ソロモンの灯	米本ひとし	S 53・11

80	あゝ三水警備隊	中谷 一正	S 47・8
81	軍医ソロモン戦線絵行脚	米本ひとし	S 51・10
82	従軍回想記国境 第一巻	田中 正太	S 55・1
83	〃 第二巻	田中 正太	S 56・7
84	〃 第三巻	田中 正太	S 58・4
85	初年兵日記	朝香 進一	S 57・7
86	泣き虫軍医物語	田中 保善	S 55・12
87	軍医のお笑い従軍記	堀 慶介	S 50・3
88	墓島からの生還	見藤千代治	H 18・3
89	海碧き島よりふるさとへ	倉ノ下和代	H 17・10
90	戦陣と軍靴	片伯部 實	S 59・8
91	夢幻の満州国	国武 唯義	H 17・12
92	勝機なきビルマ戦	武末達三郎	H 5・8
93	私と戦争	NHK福岡文化センター	H 15・11
94	輜重兵隊勇戦す	力丸 近生	H 8・10
95	陸軍へんこつ隊長物語	後藤 四郎	S 57・3
96	南溟の勇士に捧げるうた	渡瀬 和子	S 59・5
97	幽閉モンテンルパ	辻 長一	S 59・12
98	或る敗因	石田 京	H 19・2
99	生きて帰れまいこの命	矢澤 新五	H 19・3
100	一下士官のビルマ戦記	三浦 徳平	S 56・4
101	ビルマ敗退戦	興野 義一	S 56・10
102	ビルマ進攻作戦	陸戦史研究普及会	S 43・7
103	雲南、ビルマ戦記	外田 栄吉	H 元・9
104	ビルマ敗戦記	浜田 芳久	S 57・4
105	累骨の谷	橋本 武彦	S 54・2
106	戦い敗れて	堀内 龍三	S 55・6

107	第二次派遣団収骨報告		S 52・6
108	ビルマ収骨記録		S 52・9
109	絵本南戦録	渡辺勝三郎	S 53・8
110	遙かなる祖国への道	小出 盛夫	H 19・5
111	軍隊生活の思い出日記	志賀 正司	H 19・4
112	丸腰整備兵	杉田 裕己	H 19・5
113	生と死の狭間を生きて	増澤 昭子	H 19・5
114	俺の海軍時代と戦後	矢崎 高德	H 19・6
115	百七通の軍事郵便	山口ひとえ	H 19・7
116	遙かなる絆	朝永 清之	H 19・6
117	嗚呼！青春のグラフィティ昭和十四年	浜田 覚	H 19・6
118	共に帰国の朝を	斎藤 博	H 19・9
119	シベリヤヤボンスキーサルダート	井戸辺正則	H 19・9
120	鎮魂記白菊連想	菊池 康夫	H 19・8
121	ルソン島野戦病院全滅の記	西井 弘之	H 19・8
122	ニューギニア戦歌集	内貴 直次	H 19・8
123	美しき翼	原口 末次	H 19・8
124	大刀洗空襲と三軒茶屋爆撃を語る	椋島 新	H 20・3
125	柳州山河	桑原 廉敬	H 12・1
126	追憶	清原 正憲	H 16・11
127	散るぞ悲しき・栗林忠道	梯 久美子	H 17・10
128	アベマーマの守備隊長	栗林徳五郎	H 7・7
129	大国ロシアになぜ勝ったのか	偕 行 社	H 18・3
130	静かなノモンハン	伊藤 桂一	S 59・5
131	太刀洗飛行場物語	桑原達三郎	S 56・9
132	ちゃん屋奮戦記	志岐 叡彦	S 62・3
133	福岡県戦没者遺族の五十年	県遺族連合会	H 7・8

134	独立歩兵第十三聯隊第六中隊誌		S 60・4
135	父上さま母上さま	神社新報社	S 63・7
136	昭和いまだ去らず	外田 栄吉	H 元・9
137	戦場の聴診器	中田 整一	H 20・9
138	翼にかけた青春	小川 菊美	H 7・4
139	戦地から妻への 1600 通の葉書	青木 一	H 8・8
140	セレブスの海底から	池田 美代	H 16・10
141	大東亜戦争進行編	倉掛 泰隆	H 13・10
142	茜雲の空の下で	吉開 節子	H 21・5
143	九男坊の戦場	春田 實行	H 4・1
144	ラバウル日記	麻生 徹男	H 11・12
145	蛭になった特攻兵	広井 忠男	H 7・8
146	ホタル帰る	赤羽礼子・石井 宏	H 13・5
147	神風は吹かず	永末 千里	H 3・12
148	従軍記	阿部 元	H 15・1
149	捕虜貴族	佐野 専一	S 48・3
150	セブ隊義勇隊 隊長の手記	酒井 三郎	S 53・8
151	凍土地帯	勝野 金政	S 52・11
152	父の影を求めて	福住眞智子	
153	戦いいまだ終らず	久山 忍	H 21・12
154	忘れ得ぬ思い出	やひめ文庫⑤	H 7・8
155	若き将軍の朝鮮戦争 第1巻	黒木 実馬	H 24・4
156	〃 第2巻	〃	H 24・4
157	〃 第3巻	〃	H 24・4
158	空のかなたに	鳥浜トメ回想	H 2・5
159	被爆体験証言集 19	エフコープ生協	H 25・6
160	伝説の駐蒙「響兵团」一兵士の回想	上東 政治	H 24・6

161	駆逐艦初春と共に大東亜戦に参加して	鍋島 直行	H 28・7
162	樺太 戦火逃れて	藤井まさ子・藤井輝備	H 30・10
163	戦争に行った叔父	田中 明子	R 2・3
164	兵隊過去帳	桜井 忠温	S 29・7
165	悪兵	森金 千秋	S 53・5
166	墓標なき島	北川 幸一	S 63・8
167	生きて来た	津島 岳雄	S 23・10
168	傀儡部隊	酒井 三郎	S 53・8
169	憲兵	宮崎 清隆	S 45・11
170	少女たちの戦争	中央公論新社	R 3・11
171	憲兵余録	鈴木卓四郎	S 59・3
172	最後の行軍	畠山 英数	S 57・8
173	茨の道	村岡 喜代	S 59・10
174	脱獄参謀	安部 光男	S 40・3
175	ノモンハンの真相	玉田 美郎	S 56・10
176	北満 初年兵の生活日記	森下 紀良	S 55・11
177	北満永久要塞—関東軍の最期—	岡崎 哲夫	
178	ビルマ敗戦行記	荒木 進	S 57・7
179	もうひとつの太平洋戦争	並河 亮	S 59・4
180	ノモンハン戦記	小沢 親光	S 49・7
181	〔証言〕七三一石井部隊	郡司 陽子	S 57
182	戦場に捧げた青春	元日赤従軍看護婦の会	S 60・8
183	廃兵はいやだ	坂東 公次	S 28・10
184	続・侵掠	小俣 行男	S 57
185	上海陸軍病院	市川多津江	S 60・8
186	絞首刑	門松 正一	S 25・4
187	われらソ連に生きて	ソ連帰還者生活擁護同盟	S 23・12

188	逃げる兵	渡辺 憲央	S 54・6
189	青春監獄	宮崎 清隆	S 30・9
190	従軍看護婦	千田 夏光	S 50・12
191	へんこつ隊長物語	後藤 四郎	S 54・12
192	炎の日から 20 年	中國新聞社	S 41・6
193	私の雑記帳	長岡規矩雄	S 17・9
194	雑草のうた	創価学会婦人平和委員会	S 56・12
195	われ地獄へ堕ちん	長岡 純夫	S 60・7
196	初年兵日記	朝香 進一	S 57・5
197	春なき二年間	鈴木 雅雄	S 23・5
198	中国人強制連行事件	金巻 鎮雄	S 50・11
199	戦争（下巻）	朝日新聞テーマ談話室	S 62・10
200	戦友連十年のあゆみ	全国戦友会連合会	S 54・11
201	ランドセル燃えた！	小川 興	S 60・8
202	私の戦争体験記	鏡 会有志	S 57・9
203	むらの戦時記録	高篠 喜一	S 55・3
204	パレンバン of 医療団	久留米大学凶南会	S 43・9
205	アボジがこえた海	李 興燮	S 62・4
206	ヒロシマの記録	中國新聞社	S 41・8
207	太平洋戦史文献解題	井門 寛	S 46・8
208	痛恨・カボウ谷地	岡村 外男	S 58・4
209	一軍医のみたビルマ敗退戦	興野 義一	S 56・10
210	母と水兵 伝えたい吾が心の遺産	石持 武	S 59・4
211	ソロモン戦記	福山 孝之	S 55・2
212	泣き虫応召兵	南 和夫	S 53・9
213	ある患者収容隊員の死	魚住 孝義	S 52・12
214	傷痕ルソンの軍靴	佐藤 喜徳	S 57・8

215	華北戦記	桑島 節郎	S 53・7
216	私のダバオ戦記	三宅 善喜	S 56・8
217	太平洋玉砕戦	平塚 柁	S 50・8
218	私は日本軍に抑留されていた	シリア・ルーカス	S 50・8
219	野戦看護婦	安齊 貞子	S 28・6
220	侵略—従軍兵士の証言	日本中国友好協会 中国帰還者連絡会	S 50・7
221	ビルマ戦場日記	小林 育三郎	S 56・8
222	ビルマ最前線 1	宮部 一三	S 55・7
223	軍人在監人	豊田 耕治	S 53・8
224	生ある限りルソンへ	磯崎 隆子	S 59・7
225	初仕事は“安楽殺”だった	塩月 正雄	S 53・8
226	ぼくは日本兵だった	J・B・ハリス	S 61・8
227	戦史にない戦争の話	曾根 一夫	H 3・8
228	軍医たちの戦場	御園生一哉	S 57・11
229	学徒兵の手記	菊池 一雄	S 54・10
230	将軍の遺言 遠藤三郎日記	宮武 剛	S 61・3
231	蟻の兵隊 日本兵 2600 人山西省残留の真相	池谷 薫	H 19・7
234	大陸殿兵団	魚住 孝義◎	S 58・7
235	戦地憲兵	井上 源吉	S 55・11
236	戦争と人間の記録	石引 ミチ	S 54・9
237	キミちゃんの手紙 —ナガサキ被爆女学生の記録	山登 義明	S 60・6
238	雪の墓標 —夕コ部屋に潜入した脱走兵の告白	小池喜孝・賀沢 昇	S 54・4
239	海軍日記	野口富士男	S 57・8
240	人肉と日本兵	石長 真華	S 50・8
241	遥かなりルソンの山河 —わが青春の戦争と平和—	山形 近蔵	S 51・12

242	わが近衛聯隊体験記	新里 金福	S 52・1
243	ルソンに朽ちた若き航空兵達の悲劇	赤松 光夫	S 59・6
245	ああ！シベリヤ捕虜収容所	忠平利太郎	S 43・9
246	「自決」終戦殉国者の記録	永松 浅造	S 37・2
247	一血と涙で綴った証言— 戦争（上巻）	朝日新聞テーマ談話室	S 62・7
248	北朝鮮引揚者がつづる終戦史	北朝鮮引揚問題研究会	S 54・1
249	私の街から戦争が見えた	川崎市中原平和教育学級	H 1・7
250	あゝ 国民兵	樋口 喜徳	S 50・8
251	大連・空白の六百日	富永 孝子	S 61・7
252	南十字星に祈る—東部ニューギニア戦記	小口 清	S 56・8
253	遙かなる足あと	山形県遺族会編集委員会	S 63・3
254	火筒のひびき—ある従軍看護婦の記録	山崎 近衛	S 52・8
255	南方特別留学生トウキョウ日記	レオカディオ・デアシス	S 57・12
256	ラサ島守備隊記	森田 芳雄	S 43・10
257	戦場 ルソン敗戦日記	浜野健三郎	S 54・7
258	証言は消えない—広島記録 1	中國新聞社	S 41・7
259	最悪の戦場に奇蹟はなかった	高崎 伝	S 49・11
260	ある兵士の手記	宮前 鎮男	S 42・5
261	シンガポール収容所	中村 八朗	S 54・9
262	兵営日記 大戦下の歩兵第 27 連隊	大内 誠	S 63・8
263	捕虜第一號	酒巻 和男	S 24・11
264	ラバウルの落日	岡本 信男	S 50・7
265	南海の不沈艦 ポナペ島戦記	秋田 武彦	S 56・2
266	太平洋戦争史 1～6 巻	青木書店	
267	学徒兵の青春	奥村芳太郎	H 5・11
268	旋風 20 年	森 正蔵	S 21・2
269	戦時下の言論統制	松浦 総三	S 50・3

270	天皇の軍隊	熊沢京次郎	S 49・5
271	水子の譜	上坪 隆	S 54・7
272	いろまち燃えた	君本 昌久	S 58・3
273	重臣たちの昭和史 上巻	勝田 龍夫	S 5・6
274	重臣たちの昭和史 下巻	勝田 龍夫	S 56・6
275	天皇終戦秘史	篠田 五郎	
276	白昼と玉砕	安田武・福島鑄郎	S 49・6
277	知将秋山真之	生出 寿	S 60・12
278	木本営発表の真相史	富永 謙吾	
279	南京大虐殺のまぼろし	鈴木 明	S 48・3
280	媚婦たちの天皇陛下	佐木 隆三	S 53・10
281	兵隊たちの陸軍史	伊藤 桂一	S 44・4
282	白の十字架	第 63 兵站病院追想記	S 43・6
283	裂日サイパン島	白井文吾編	S 54・3
284	敗者の贈物	ドウス昌代	S 54・7
285	「流転の王妃」の昭和史	愛新覺羅 浩	S 59・11
286	昭和特高弾圧史	明石博隆・松浦総三編	S 50・6
287	日本の暗号を解読せよ	ロナウド・ルウイン	H 10・12
288	作戦参謀 辻政信	生出 寿	S 62・7
289	海軍散華の美学	春山 和典	S 47・12
290	わが電波戦略戦		S 45・10
291	従軍慰安婦女子勤労挺身隊	伊藤 孝司	H 4・8
292	大東亜戦史ジャワ作戦		H 17・11
293	海軍特別攻撃隊の遺書	真継不二夫	S 46・8
294	戦時下に生きる	伊豆 利彦	S 55・5
295	私の記録	東久邇宮稔彦	S 22・3
296	航空母艦	永村 清	S 17・1

297	従軍慰安婦悲史	千田 夏光	
298	従軍慰安婦（正篇）	千田 夏光	S 53・9
299	従軍慰安婦（続篇）	千田 夏光	S 53・9
300	従軍慰安婦・慶子	千田 夏光	S 56・11
301	国防婦人会	藤井 忠俊	S 60・4
302	ヒトラーと第二次世界大戦	三宅 正樹	S 59・9
303	学徒出陣最後の早慶戦	笠原知夫・松尾俊治	S 55・4
304	病院船	大嶽 康子	S 14・9
305	関東軍参謀部	完倉 寿郎	S 60・8
306	中支湖南戦線とプーゲンピルの死闘	半沢 幸親	S 58・5
307	おかわいそうに	ルイス・ブッシュ	S 31・8
308	ビルマ戦	小宮 徳次	S 53・3
309	地の果てに死す	植松 仁作	S 51・1
310	特高の回想	宮下弘・伊藤隆・ 中村智子	S 53・6
311	ナガサキの証言	鎌田 定夫	S 50・7
312	監軍護法の鬼たち	椿 英児	S 57・8
313	海の城	渡辺 清	S 44・11
314	ガダルカナル敢闘記	柏木 啓一	S 19・1
315	人柱	中村 一雄	S 42・8
316	虜人日記	小松 真一	S 50・6
317	奈津子 11 戈の夏へ刻む	瀬川 満夫	H 3・11
318	中国大陸の日本兵		S 53・10
319	私の墓標	山岸 督郎	S 47・1
320	参謀	安倍 光男	S 28・3
321	ヒロシマ	ジョン・ハーシー	S 24・4
322	烈日サイパン島	白井 文吾	S 54・3
323	大阪の戦争遺跡		S 62・7

324	村と戦争	黒田 俊雄	S 63・12
325	自刃記録	大東塾 14 烈士	S 30・8
326	空のかなたに	朝日新聞西部本社	H 2・4
327	カ子 チャーズ	遠藤 誉	S 59・7
328	色のない花	千田 夏光	S 59・4
329	東條英機と天皇の時代 (上)	保阪 正康	S 54・12
330	タラカン島戦記	宮地 喬	S 57・4
334	東部ニューギニア戦記	鈴木 正己	S 57・7
335	中国戦線私記	伊藤 勝	S 56・10
336	同日同刻	山田風太郎	S 54・8
337	東條秘書官機密日誌	赤松 貞雄	S 60・8
338	戦争と女優	工藤 正治	S 46・11
339	東條英機と天皇の時代 (下)	保阪 正康	S 55・1
340	工兵第二十三連隊記録		S 51・3
341	工兵第二十三連隊記録		S 54・5
342	体験の仏教 9	浅川 治康	S 49・7
343	沖縄の日本軍	大島 幸夫	S 50・8
344	楯 ほだび 火	岡村 俊彦	S 36・5
345	暗い夜の記念	風間道太郎	S 56・1
346	残留日本兵の真実	林 英一	H 19・7
347	回想 大平洋戦争	ウィリアム・マンチエスター	S 59・1
348	戦争紀行	杉山 市平	H 19・7
349	神を見た兵隊	牛尾 節夫	S 57・6
350	知覧特攻基地	永崎笙子・赤羽礼子	S 54・2
351	戦争の流れの中に	前田 雄二	S 57・8
352	中国ビルマ戦記	菊地 重規	S 54・10
353	武漢兵站	山下 清吉	S 53・12

354	ある逃亡兵の告白	丹野 吉一	S 64・10
355	さすらいの〈未復員〉	吉永 春子	S 62・7
356	日中戦争	森金 千秋	S 57・8
357	ある日赤紙が来て	真鍋 元之	S 56・7
358	タブナン	マヌエル・F・セグーラ 大野 芳訳	S 63・
359	ニューギニア戦追憶記	星野 一雄	S 57・9
340	明日への道	横井 庄一	S 49・2
341	慟哭の満州	橋本カツ子	S 53・8
342	この平和への願い	信濃毎日新聞社	S 51・4
343	私の空襲体験	山本 一哉	S 44・8
344	華南戦記	越智 春海	
345	シンガポール戦記	荒井 三男	S 59・1
346	戦争栄養失調症	青木 徹	S 54・5
347	馬の骨放浪記	山田 勝三	
348	銃後の戦史	野添 憲治	S 52・8
349	むらの戦時記録	鶴ヶ島町史編さん室	S 55・3
350	平和の礎 全 23 巻	平和記録事業特別基金	
351	戦を知らない世代へ 全 56 巻	創価学会青年部出版委員会	
352			
353			
354			
355			
356			
357			
358			
359			
360			